

仙台高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	インターンシップ B	
科目基礎情報							
科目番号	0129		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数		学修単位: 5		
開設学科	生産システムデザイン工学専攻		対象学年		専1		
開設期	後期		週時間数		5		
教科書/教材	指定なし						
担当教員	矢入 聡,本郷 哲,坂口 大洋,伊師 華江,大町 方子						
到達目標							
実習を通して、現場の技術等に触れ、自主的、継続的に考える力、コミュニケーション能力、社会人としての良識ある行動力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
企業活動における評価	社会人として自主的、継続的に考え、良識のある行動力がある。		言われたことを十分に達成した。		社会人としての規律を守らない。		
事前学習、事後学習	積極的に企業の社会的役割を考え、自分の技術的立場からインターンシップにかかわれる。		事前の研修会に参加し、レポート等を提出した。		事前の研修会等に参加していない。		
発表会における発表	他の学生に十分に参考になるような発表を行った。		決められた発表を行った。		インターンシップを通して学んだことを発表していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業や公的機関において、2週間以上6週間未満の実務実習を行う。または、学外の高等教育機関（海外が望ましい）における、自分の視野を広げるための教育活動に参加する。						
授業の進め方・方法	事前講習、実習、発表会からなる。 事前実習や発表会には必ず参加し、かつ必要なレポートを提出しなければ、単位として認められない。 2年次に追加履修する場合も同様である。 <事前学習> 2回行われるガイダンス、説明会に参加すること。 <事後学習> 実習レポート、及び発表会に参加すること。						
注意点	学外の高等教育機関において、専攻研究と同じ内容を実施することは、単位として認められない。 実習の時間数（日数）に応じて、単位数が異なるので、注意すること。6週以上のインターンシップについては、インターンシップBでの認定となる。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	事前講習講習		実習に臨むうえでの心構え等を理解する。		
		2週	実務実習		企業等にいて5週間以上14週間未満の実習を行う		
		3週	実務実習		(1) 実習を通し「仕事」について考え、将来の技術者としての意識を高める		
		4週	実務実習		(2) 意欲的な実習、および自主的に考え、創意工夫のある実習を行う。		
		5週	実務実習		(3)下のいずれかの技術修得する。 -1現場における専門技術		
		6週	実務実習		-2研究開発の方法や技術 -3製造等の工程に関する技術		
		7週			-4設計/デザイン等に関する技術 -5情報サービス産業の技術		
		8週			-6公的機関の業務支援 -7海外の高等教育機関の受講		
	4thQ	9週					
		10週					
		11週	実習報告書作成、報告会発表準備		実習終了後に、実習証明書、実習日誌、実習報告書を提出する		
		12週	報告会での報告		インターンシップ報告会の前刷りと発表資料による報告を行う。		
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	6		
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	6		
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	6		
				企業における社会的責任を理解できる。	6		
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	6		
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	6		

				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	6	
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	6	
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	5	
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	5	
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	5	

評価割合							
	企業評価	発表		態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	30	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20